

茨木市立 郡山小学校 茨木っ子グローイングアップ計画

平成 30年10月作成

1 3年間の計画

	目標	平成29年度(2017年度)	平成30年度(2018年度)	平成31年度(2019年度)
中学校ブロック保幼小中連携	<p>・基礎的な生活習慣の定着を進めていくとともに、様々な生活体験を通して心情豊かに、安心して過ごせる集団をつくり、遊ぶこと、体を動かすことが楽し気持ち思える子どもを育てる。</p> <p>・校区全体で、つながりを持って取組を展開し、一人も見捨てず、集団づくりと授業づくりの連携のなかで、全ての子どもたちが、違いを認め合い育ち合う集団をつくる。</p>	<p>●保、幼、小、中、高、大、地域、連携の情報共有発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小小交流を進める。(6年生同士の合同授業)(児童会交流会) ・共通実践を模索する。(部落問題学習や多文化共生教育) ・保幼小での段差解消に努め、職員同士が学び合う。(相互参観)幼稚園が小学校のプールで活動、幼小給食交流 ・いきいきスクールを活用し、中学校の先生が小学校へ来校し、授業などを行う。 ・合同授業研での柱を再確認し、授業づくりを共に行う。 	<p>●保、幼、小、中、高、大、地域連携の具体的実践の定着化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小小交流会において各校の実践を共通化させていく。共通実践の具体化を進める。 ・委員会や行事における交流を増やし、小小の子どもの出会いから学びをしくむ。 ・中学校の教員が小学校で定期的に授業を行う。 ・年間5回の三校合同授業研の授業づくりに各校の教員が定期的に参加する。 ・各校で行っている授業づくりや校内研において、学力担当者を中心として、積極的に参加する。 	<p>●校区全体での連携推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校卒業時点を視野に入れ、豊かな進路選択ができるような、学力・生活習慣の定着。 ・小小、小中の教員が校区の課題を共有し、共に実践を語り合い、一丸となって取組みを進めていく。 ・成果と課題の分析。
確かな学力の育成	<p>・聴きあい学びあう子どもを育てる</p>	<p>①3校合同授業研の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月(豊川中学校)、10月(豊川小)、2月(郡山小)・7月(夏季ビデオ研) <p>②授業づくり研修を、人権教育・支援教育・情報教育などと連携し展開する。ICT活用の研修も含む。</p> <p>③確認テストから学力データを経年で蓄積し、学年の特徴や学力を総合的に分析</p> <p>④中高連携を密に。キャリア教育の充実。(追指導)</p> <p>⑤授業アンケート実施。子どもの授業内容の定着度合いや、授業づくりの重点課題を分析。また、全国学力・学習状況調査の結果分析もふまえて、子どもに必要な学力を授業でどう付けていくかを考える。</p> <p>⑥ユニバーサルデザインを取り入れた、授業の展開。生徒一人ひとりのつまぎきは多種多様であるが、一人残らず授業に参加させ学びを保障する取り組みを展開する。</p>	<p>①3校合同授業研の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年3回 ・夏季ビデオ研 <p>②授業づくり研修を、人権教育・支援教育・情報教育などと連携し展開する。ICT活用に特化した研修も含む。</p> <p>③確認テストから学力データを経年で蓄積し、学年の特徴や学力を総合的に分析</p> <p>④中高連携を密に。キャリア教育の充実</p> <p>⑤校内の授業アンケートを行い、子どもの授業内容の定着度合いや、授業づくりの重点課題を分析。また、全国学力・学習状況調査の結果分析もふまえて、子どもに必要な学力を授業でどう付けていくかを考える。</p>	<p>①②を継続、3年間の成果を検証。</p> <p>③図書館利用状況、自主勉ノートと学力等の相関から分析、考察、検証。</p> <p>④3年間の学力データを分析・考察</p> <p>⑤全国学力テストより分析・考察</p> <p>⑥スポーツテストにて検証。</p> <p>⑦学習状況調査・生徒質問紙および生活アンケートより検証、分析。</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">豊かな人間性を育む</p>	<p>・一人ひとりの人権が尊重される社会の実現をめざして、考え、行動できる力を育てる。</p>	<p>① 生活アンケート（年1回）・社会性測定用尺度（年3回）の実施。 子どもの自己肯定感や自己有用感に関するデータを蓄積し、分析する。</p> <p>② 体験型学習 校外学習や職業体験学習などの体験型学習を通して、仲間を思いやり協力する力や社会を構成する一員としての自覚を育てる。</p> <p>③ 人権教育の展開 多文化共生学習や部落問題学習などさまざまな人権課題についての学習を深める。小中で連携し、系統だった学習が展開できるようにする。</p> <p>④ 道徳授業の推進 道徳委員会を中心に、指導案の練り上げを行う。</p>	<p>①～④を継続して行う。 ⑤ 成果と課題を分析する。</p>	<p>①～④を継続して行う。 ⑤ 成果と課題を分析する。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">健康・体力の増進</p>	<p>・基本的な生活習慣の確立 ・生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の育成</p>	<p>①4月新体力テストの実施 過去データと比較できるように、業者へデータ分析を依頼する。</p> <p>②授業づくり 体を動かせることを意欲的に取り組めるように、授業の内容・方法を工夫する。研修にも参加し授業力向上に努める</p> <p>③具体的な目標設定 目標や到達点を文章化することにより、継続的に取り組む体制を組織的につくる。</p> <p>④生活アンケートの実施 3食きちんと食べているかなど、食事・運動・休養が正しく行われているか検証、適宜面談等をおこなう</p> <p>⑤部活動の活性化 生徒数減少にともない部活数を増やせないが、部活の活性化につとめる</p>	<p>・成果と課題の分析 課題は次年度へ。</p>	<p>・成果と課題の分析</p>
<p>支援教育の充実</p>				

2

今年度の結果と取組みについて

(1) 全国学力・学習状況調査

○●国語●○

<p>国語A (領域ごと)</p> <p>① 話すこと・聞くこと 課題が残る結果であった。</p> <p>② 書くこと やや課題が残る結果であった。</p> <p>③ 読むこと やや課題が残る結果であった。</p> <p>④ 言語事項 課題が残る結果であった。</p> <p>(問題形式)</p> <p>① 選択式 課題が残る結果であった。</p> <p>② 短答式 課題が残る結果であった。</p> <p>(無解答率) やや課題が残る結果であった。</p> <p>(その他)</p>	<p>国語B (領域ごと)</p> <p>① 話すこと・聞くこと やや課題が残る結果であった。</p> <p>② 書くこと 課題が残る結果であった。</p> <p>③ 読むこと 課題が残る結果であった。</p> <p>(問題形式)</p> <p>① 選択式 課題が残る結果であった。</p> <p>② 記述式 課題が残る結果であった。</p> <p>(無解答率) やや課題が残る結果であった。</p> <p>(その他)</p>
---	--

分析

- ・全国の正答率との比較から、郡山小学校が全国と差がない問題と全国と差が出た問題について分析する。
- ・国語Aでは、「オムレツの作り方を調べる」の問題で全国と変わらない正答率であり、良好な結果となった。この課題はオムレツの作り方を読んで、それを作った二人の感想を踏まえながら、もう一度どうすれば上手に作れるかを問う問題であった。日常生活に密着した問題であり、目的に応じて必要な情報を捉えることが問われている。内容が家庭科と横断的であり、普段から家の手伝いをしていること、友だちの考えから何が必要かを的確に判断できている。
- ・国語Aの正答率が最も低かったのは、「春休みの出来事の文章を読み直す」問題である。主語と述語の関係に注意して文を正しく書くことが問われている。日本語の構成として文法を正しくおさえ、理解していることが必要となる。教科書を扱う時や作文の時間に文の構成に気を付けながら書くという学習が必要であると感じる。ぬくもり作文などで書く時間の保障はできているが、丁寧に文章を自分の力で書くという時間や文法を扱う単元ではより自分で作文する時間を設け、深い理解をさせていく必要がある。
- ・国語Bで全国の結果と変わらなかった問題は「言葉の使い方を見直すために話し合う」をテーマにしたもので、話し合いの様子をを読んで、自分の考えを80字以上100字以内でまとめて書くという問題である。互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合う力が問われている。話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして、考えをまとめることができた。「聴き合い学び合う授業づくり」をテーマに研究している本校としては、普段の授業で相手の話を聞き取る力が育ってきていると考える。また、献立を推薦する文章についても全国と変わらない結果となった。紹介文と保健室の先生の話から50字以上80字以内でまとめて書くという問題であったが、両者の意見を的確に読み取り、推薦文を書くことができていた。
- ・国語Bの課題が残る結果となったのは、「伝記を読んで自分の考えをまとめる」問題である。登場人物の具体的な行動を取り上げて理由を60字以上100字以内でまとめることが求められる。最後の問題で時間が足りなかったことや、伝記という普段あまり読んだ経験のないお話ということからも正答率が非常に低い問題となった。最後まであきらめずに問題に向き合う体力や様々な分野の読書に触れる取組みが必要である。朝読で取り組んでいるペア読みは色々な内容を読む機会となるので続けていきたい。

算数

算数A

(領域ごと)

① 数と計算

課題が残る結果であった。

② 量と測定

やや課題が残る結果であった。

③ 図形

課題が残る結果であった。

④ 数量関係

概ね良好な結果であった。

(問題形式)

① 選択式

概ね良好な結果であった。

② 短答式

課題が残る結果であった。

(無解答率)

やや課題が残る結果であった。

(その他)

算数B

(領域ごと)

① 数と計算

課題が残る結果であった。

② 量と測定

課題が残る結果であった。

③ 図形

課題が残る結果であった。

④ 数量関係

課題が残る結果であった。

(問題形式)

① 選択式

課題が残る結果であった。

② 短答式

課題が残る結果であった。

③ 記述式

課題が残る結果であった。

(無解答率)

やや課題が残る結果であった。

(その他)

分析

- ・全国の正答率との比較から、郡山小学校が全国と差がない問題と全国と差が出た問題について分析する。
- ・算数Aでは、「計算の意味の理解と演算決定」において、数直線で考える問題に課題が残り、その文章題を式に表す問題は全国を超える正答率であった。このことから、演算決定はできるがその意味理解を説明する力や数の概念としての深い理解にまでは到達していないということがわかる。普段の授業から演算決定の際に根拠や理由を考えさせ、図や数直線を活用した理解を深めていきたい。
- ・算数Aの「単位量当たりの大きさ」を問われた問題では、全国を大きく上回る結果となった。異種の2つの量の混み具合の比べ方を理解し、単位量当たりの大きさについて計算することができている。5年生の時に学習する際に、1あたりの概念や田の字で整理する力などを育てることができた。また、かけ算割り算からの積み重ねも少しずつできている。
- ・算数Aで全国と差が大きくなれた問題は「角の大きさ」で180度以上の角度を読み取る問題と「空間の位置の表し方」である。どちらも4年生の時に学習した内容であるが、定着できていない。分度器や空間の位置は4年生以降出てこないが、長期休みの宿題や、学期のまとめの時に活用させたい。また、4年生の時に学習する際にも、分度器にたくさん触れたり、具体物に触れることで深い学びをさせたい。
- ・算数Bではほとんどの問題で全国と差が見られ、活用問題ができていない実態がある。普段の授業から活用を意識した発展的な問題にも挑戦させていく必要がある。
- ・特に課題が残ったのは、「図形の考察と観察」についてである。敷き詰め問題を論理的に考察し、数学的に表現する力が問われている。敷き詰められた図形の中で角の大きさが360度となる理由を言葉や式を用いて説明する問題であった。解法が見えてこなかったり、何を問われているかを考えられなかったり、説明の仕方がわからなかったりと非常に難しい課題であった。正三角形の一つの角度が60度あるということだけでなく、正六角形の一つの角が120度であるという知識を活用し、論理的に説明する力をつける必要がある。算数ではあるが、言葉で説明し、理解する必要がある。普段の授業でペアやグループで十分活動する時間を保障し、言語活動としての算数を深めていく必要がある。
- ・文章問題が長く、情報量が多い問題は正答率が低い傾向にある。短い時間の中で、長い文章問題をあきらめずに読み取り、情報を整理できる力をつける必要がある。
- ・何を問われているのかを把握し、的確にその意図を理解して読みとるのが難しい。
- ・授業では日常生活に即した情報量の多い課題を提示し、グループで課題を解決していく道筋を探究していく必要がある。
- ・基礎基本の部分は、くり返し丁寧な指導が必要である。単元が終わってからも、重要な学習に関してはさらに積み上げていく取組みが必要である。

(領域ごと)

- ① 物質
課題が残る結果であった。
- ② エネルギー
課題が残る結果であった。
- ③ 生命
課題が残る結果であった。
- ④ 地球
課題が残る結果であった。

(問題形式)

- ① 選択式
課題が残る結果であった。
- ② 短答式
概ね良好な結果であった。
- ③ 記述式
課題が残る結果であった。

(無解答率)

やや課題が残る結果であった。

(その他)

分析

- ・全体的に課題が残る結果となった。
- ・生命に関する問題では、調べた結果について何をまとめていたのかを問われる問題で全国との差があった。しかし、その問いで使用される関節という言葉を知識としては知っている児童が多かった。何についてまとめているのかを読み取る力が足りていなかった。
- ・地球に関する問題では、上流側の天気と下流側の水位について、複数の情報を基にした分析が求められた。5年生で学習する生命地球の単元で学習した地面を流れる水や川の様子、流れる水の速さや量による働きの違いを理解し、天気の変化の仕方についても理解する中で、多面的に分析する力が必要であった。これからの生きて知識を活用するためにも、気象レーダーやICTなどの視覚教材などで普段の天気や自然とのかかわりを意識した授業展開が大切であると考え。特に昨今は自然災害が多く、命を守る意味でも様々な情報を複合的に読み解くことが求められる。気象庁、国土交通省、各自治体などの情報をひも解く力もつけていきたい。
- ・エネルギーに関する問題では、電流の流れ方について予想したことと結果を見通して実験を構想する力が求められた。予想をたてて、実験をし、結果を考察する理科の醍醐味を普段の授業でも実際に児童が主体的に行うことで深い学びをさせたい。乾電池のつなぎ方を変えたり、豆電球の数やモーターの回り方についての実験については丁寧にやりたい。また、グループでも実験結果を予想させ、結果について交流することで、さらに理解が深まると考える。友だちの予想と自分の予想を比較する力を育てていきたい。
- ・粒子に関する問題では、実験結果を基に分析する力や問題に対して改善する力が問われていた。実験から言えることだけに言及した内容に改善し、まとめなければならなかったが、大変課題が残る結果となった。実験の結果だけを取り出して言及し、「食塩のみ蒸発する」という結論を記述する。日頃の予想、実験、分析を丁寧に言い、実験の条件などを結果といかに結びつけているかを考えさせていく必要がある。
- ・全体を通して、資料の多さと文章の長さで、問題の概要が読み取れない、イラストと問題文の内容を結びつけて考えられていないなどの課題があり、資料、イラストを活用する力をつけていく必要がある。
- ・児童主体の実験、観察を丁寧に言い、ノートへのまとめ方、誰に発表するかを意識的に仕組み、発信する中で思考させ、定着させていく。
- ・中学年以降の観察や実験などの内容が、次の学年でつながる場合は意図的に復習できる問題を出して定着できるようにする。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

全体的に算数、国語ともに課題が残る結果となった。特にB問題などの文章量、情報量が多い問題については無解答率が増え、正答率が下がった。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

学力高位層が少なく、学力低位層が多い傾向にあるが、例年と比べるとそれ以上に中間層が少ない。エンパワー層の割合は非常に高い。

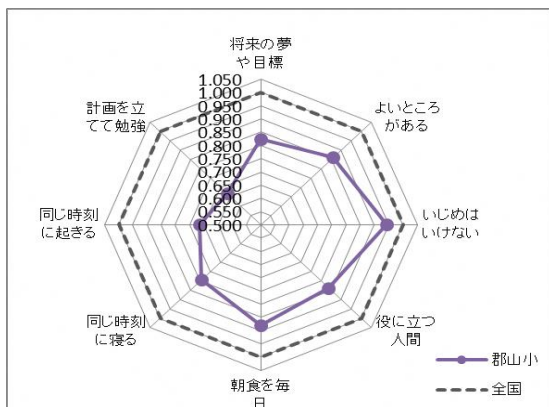
○●取組み●○

学力向上に関する取組み

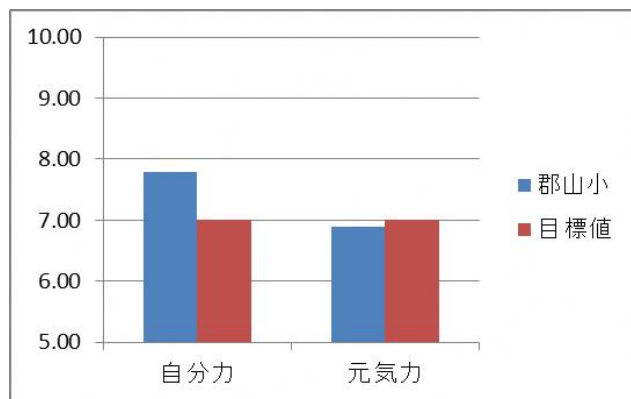
- ・**聴き合い、学び合う子ども達**を育てるために、授業づくりを研究し、ペア、グループ学習などで友だちの意見を聴く、自分の考えを表現するなどの力をつける。
- ・**校内授業研**を低中高から2本ずつ合計6本公開し、学校全体で取り組む授業のあり方、方向性を共有し、子どもたちにつけたい力や普段の授業力向上に生かす。
- ・授業後の**研究会**では、ビデオでの授業検証、全員発言、ふりかえりシートの活用によって、教職員全員の学びを全体に広げ、一人ひとりの教材づくりや子どもをつなぐ視点などを養う。
- ・**3校合同授業研**（中学校2回、夏季ビデオ研（両小）、両小学校1回ずつ）で同じ視点で授業づくりを行う。それぞれの授業づくりに参加し、3校の学びを深め、広げていく。
- ・**豊川ネットワーク**の学力保障部会で月に1回顔を合わせて、保幼小中連携を密にし、それぞれの取組みを交流し、情報共有を行う。実態把握と課題の共有をし、共通実践を模索する。
- ・放課後の**学びルーム、パンダ教室、なかよし教室**における個別の課題に対応した取組みを毎日行うことで、学力低位層の底上げや学習内容の定着を図る。
- ・表現することを保障し、子ども同士をつなぎ、教員が子どもとつながるための**作文教育**（ぬくもり作文）に取り組む。ぬくもり作文として、子どもたちにおもしろい作文をシャワーのように浴びせて紹介し、書いてみたいという雰囲気をつくる。書きたくなったら題材を集めて作文を書く。書いたものをクラスや全校で紹介する。表現する喜びや自己解放を促し、安心して自分のことを出せる集団づくりにもつなげていく。
- ・**ふりかえり週間**に年間3回取り組む中で、生活のリズムや学習への態度を養う。学習へ向かう姿勢・準備物などの基盤づくりをクラスで話し合い、自分たちの課題として取り組む。
- ・**授業規律**などのスタンダードを学校文化として定着させて、6年間を見据えた共通認識を持つ。郡山スタンダードの下敷きの活用をする。
- ・朝の時間は朝読と**ショートストーリー（ペア読み）**、百マス計算に取り組む。朝読では落ち着いたスタートをさせるとともに、集団貸し出し、図書委員会の読み聞かせにより、読書の楽しさに触れ、国語力の向上につなげる。ショートストーリーは5分程度で読める文章を全員で読んで、その後に何が書かれていたかをペアで交流する。
- ・**全校縦割り学習**「こおりやマンタイム」を実施し、高学年が低学年の算数の問題を教える中で、低学年の学力保障をすると共に、高学年の学習に向かう姿勢や優しく関わる力を育み、自尊感情を高める。ことばのちからのワークシートもこの時に活用する。
- ・自らの学習意欲を高めるために、**児童会**による学力向上の取組みを仕組む。忘れものゼロプロジェクト、朝学のプリント、ペアやグループのよさを発信したり**校内漢字検定**を実施する。
- ・**自主学ノート**の推進 自主学ノートによる勉強への意欲関心を高め、自分から学習に向かう態度を養う。職員室前に掲示し、全校で共有できる取組にする。
- ・一人ひとりの子どもが安心して学び合い、分かりやすいユニバーサルデザインの授業づくりを進める。

○●子どもたちに育みたい力●○

5つの力 全国平均との比較



5つの力 目標値との比較



今年度は質問紙項目が大幅に変更になったため、5つの力をこれまでどおり算出することができませんでした。そのため、全国平均との比較(レーダーチャート)は8項目、目標値との比較(棒グラフ)は、3項目とも実施した『自分力』と『元気力』のみとなっています。

分析

今年度の5つの力にあてはまる項目全体的に課題が残る結果となった。特に計画をたてて勉強するという指標が低く、主体的に学習する姿勢や態度にも影響することを考えると急務の課題である。自主学習や予習復習などを自ら計画を立てて進めていく課題を出すことで力をつけていきたい。

また、同じ時刻に寝て、同じ時刻に起きるという生活リズムにおいても課題が残り、家庭と連携し安定した生活が送れるように取組みを進めていく必要がある。ふりかえり週間という取組みでは、朝食や寝る時間などについて家庭で考える機会を設けているが、高学年になるにつれて形骸化していく傾向もあり、新たに生活リズムについては啓発していく必要性を感じた。

自尊感情についても、自分にはよいところがあるの項目が低く、将来の夢や目標についても低い数値となった。集団や家庭の中で、他者に認められ、自分のことが好きで、安心して自分を出せる居場所づくりを進めていく必要がある。

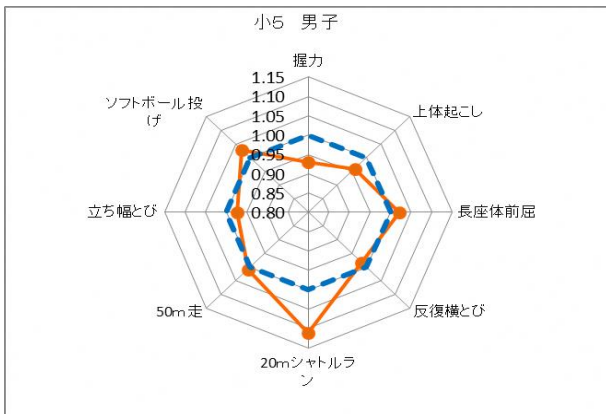
取組み

- ・**児童の主体的な活動**を増やす。どんな学校にしたいかを各学年で考えて、その目標に向けて具体的な取組みを考える。各種委員会活動を活性化し、児童主体の取組みを促す。
- ・**集団、学級づくり**ではマイワークなどの取組みを行い、自分の仕事をクラスで位置づけて認められる活動にする。安心ルールやもちあじなどのワークを取り入れて、居心地のよいクラス、夢(目標)に向けて努力できる集団をつくる。また高学年では実行委員会の仕組みをつくり、各学年の行事も児童主体に動かす。
- ・**人権総合的なカリキュラムの構築**を学校全体で行う。各学年で取り組む人権総合カリキュラムを作っていく。人権教育委員会や低中高部会が中心となり、子どもの実態から出発する人権教育を実践する。多文化共生を柱とし、豊川小学校が実践している部落問題学習からも学ぶ。
- ・**全校縦割り学習**により、高学年としての自覚や低学年にやさしく接する態度を養い、学習の振り返りを行うとともに、学校全体を見る意識を育てる。低学年は難しい課題を一緒に考えてもらいながら学習の定着を図り、高学年のやさしさに触れ、憧れを抱く。
- ・**ふりかえり週間**による生活リズムの安定や学習習慣の定着化に取り組み、保護者との共通理解、連携をはかり、地域で子どもを育てる中心的な役割を果たす。
- ・各教科の**授業づくり**で、子ども達が楽しいと思えるような教材設定や活動を取り入れる。日常生活につながる課題をつくることで、主体的に向き合う意欲の向上と課題を解く達成感、有用感を持たせる。授業で集団作りをし、子どもどうしをつなぎ、信頼関係を築いていく。

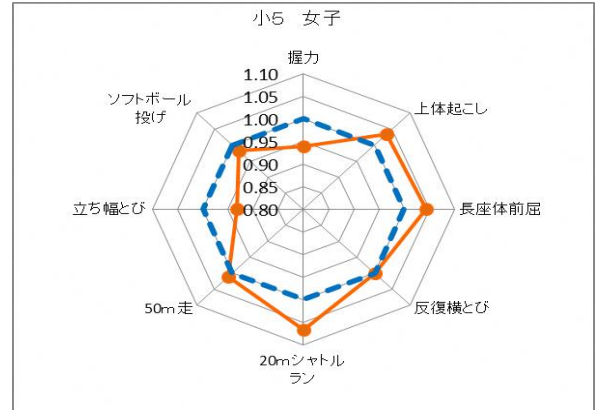
(2) 全国体力・運動能力、生活習慣調査

○●体力●○

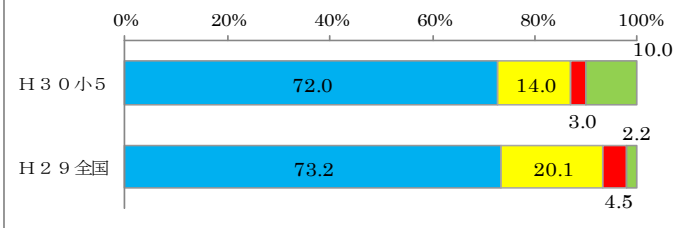
男子 (小5)



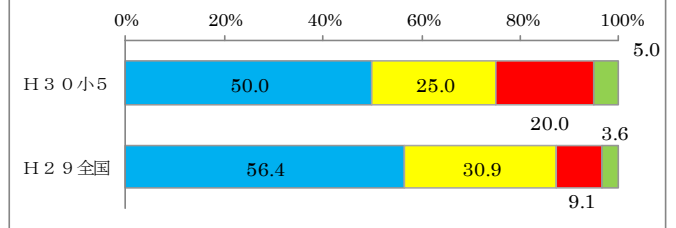
女子 (小5)



運動・スポーツが好きですか(小5男子)



運動・スポーツが好きですか(小5女子)



■好き ■やや好き ■やや嫌い ■嫌い

分析

- ・男女ともに20mシャトルランの数値が全国を大きく上回った。
- ・男女ともに長座体前屈、反復横跳び、50m走の3種目において良好な結果となった。
- ・男女ともに握力が全国を下回る結果となった。
- ・男女に差が見られたのが、上体起こしで女子の数値が全国を上回り、男子の数値が下回る結果となった。その他に差が見られたのが、ソフトボール投げで男子が全国を上回ったのに対して女子は少し下回る結果となった。

取組み

- ・**茨木っ子運動II**の活用を全校で取り組む。郡山小オリジナルの茨木っ子運動IIを授業最初に必ず実施し、体の使い方を意識し、体幹を鍛える。
- ・**6年間を見据えた系統的なカリキュラムの作成** 各学年で取り組む体育の内容を重なりやもれ落ちがないように作成する。ボール、器械、陸上、水泳、体づくりなど領域の中で縦のつながりを考える。同じ時期にどの学年も同じ領域を指導することで準備をスムーズに進めたり、縦のカリキュラムを意識できるようにする。
- ・三角竹馬、一輪車など**器具や遊具の充実化**をはかる。三角竹馬、バランスボール、バランスディスク、運動遊びロープなどを取り入れていく。学級のボールを3種類にし、外で遊ぶきっかけをつくり、意欲向上をねらう。
- ・**全校みんな遊び**(朝会、昼休み)を取り入れ、体を動かす機会をつくり、その楽しさを知る。
- ・**こおりやマンラリー** 毎週20分休みに全校児童が運動場に出て、6種目の運動にチャレンジする。50m走、走り幅跳び、800m走、鉄棒、なわとび、ラダーで記録をとる。特に800m走に意欲的にチャレンジする児童が5年生には多く、今回のシャトルランの記録が向上したと言えるのではないと思う。ラリーの種目を見直し、課題であった反復横跳びが向上傾向にあるので継続させていきたい。また、握力についてもラリーで対策を進めていきたい。
- ・**校内団地マラソン大会**に向けた朝マラソンを実施する。運動をすることで1時間目の授業にも気持ちよく入ることが出来る。その中で昨年の記録を上回る自己記録の更新を目指す。
- ・**なわとび週間**に向けた体育委員会主導の活動に取り組み、大縄大会を開催する。
- ・**放課後の校庭開放**による遊び場の確保と、道具貸し出しによる様々な動きの経験を推奨。外で遊ぶ児童の育成。